



内部不正のキモに働きかけるために

組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG

甘利 康文

(セコムIS研究所)

発表概要



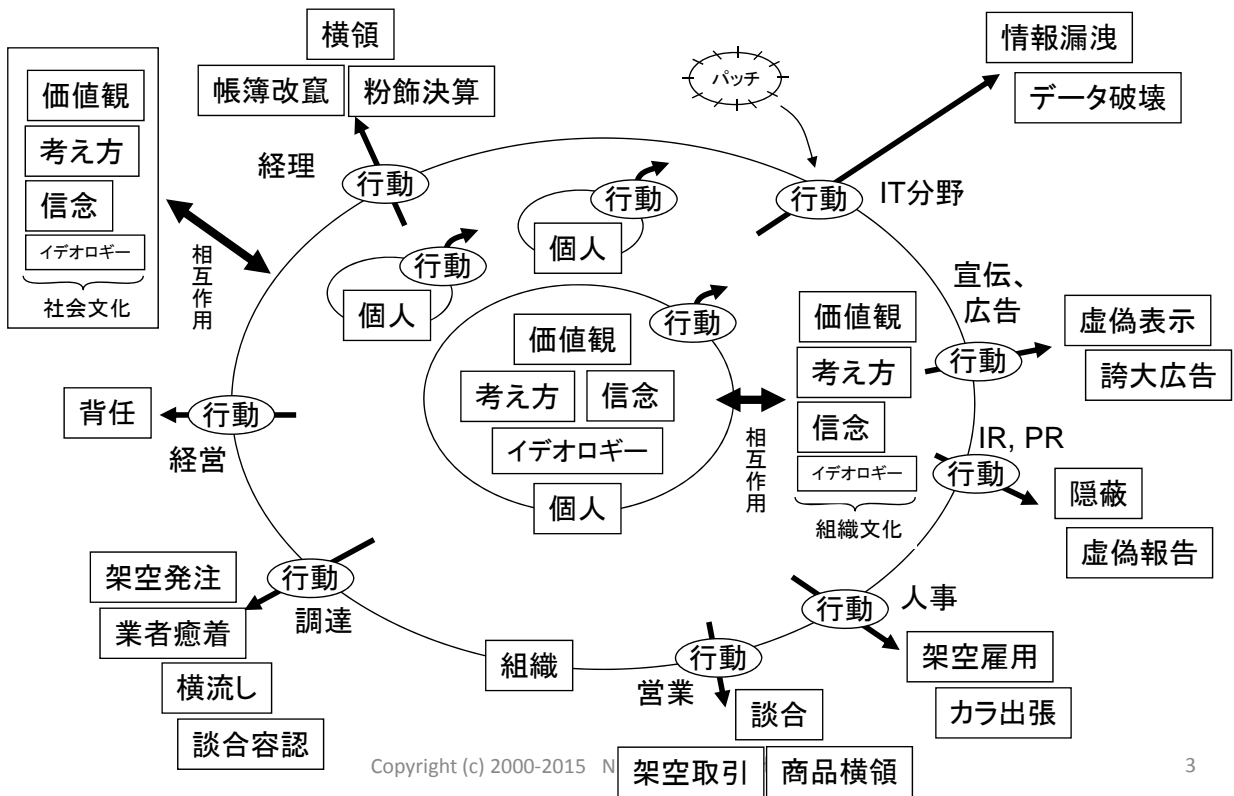
昨今発生した組織の内部関係者による大規模個人情報漏えい事件が契機となり、世の人々の「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する意識が高まっています。

これを受け、本WGでは、「組織で働く人間による不正・事故は止められるのか？」という論点から、内部不正対策書籍「内部不正対策14の論点」を上梓しました。

今回は、この書籍の基本コンセプトを紹介させていただきます。なお、書籍の内容詳細については、別途、機会を改めて紹介させて頂く予定です。

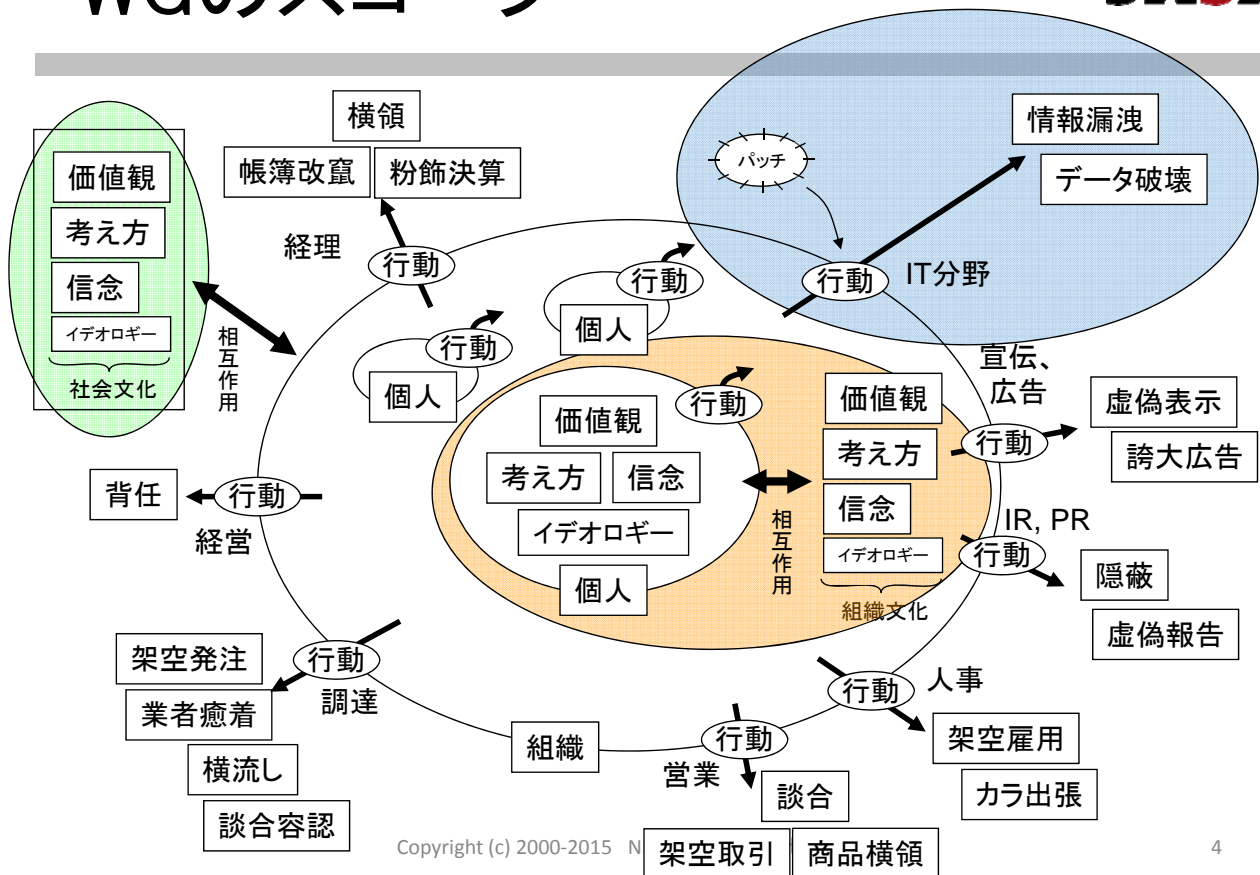
不正発生モデル (JNSA内部不正対応WG)

(出典) 甘利康文: 組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG, JNSA Press, Vol.35, pp.6-7 (2013)



Copyright (c) 2000-2015 N

WGのスコープ



Copyright (c) 2000-2015 N

以下の3方向から「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する考察を深め、ソリューションの提言、提案を行うことを目的とする。

- (1) 人の意識や組織文化、
- (2) 組織の行動が影響を受ける社会文化や規範、
- (3) 不正を防ぐシステム

内部不正対策 14の論点



JNSA 組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG 編

オンデマンド (ペーパーバック): 232ページ

出版社: インプレスR&D (2015/6/5)

ISBN-10: 4802090056

ISBN-13: 978-4802090056

発売日: 2015/6/5

¥ 2,484 (Print on Demand版)

¥ 1,600 (電子書籍版)

セキュリティが守るべきもの(甘利)

1. 「組織のオペレーションを守る」のがセキュリティ
2. 防犯や、情報セキュリティ対策もその一環
3. 働く人を守る
4. 罪による統制と、恥による統制

第2部 情報セキュリティ

内部不正はセキュリティ製品で防げるか(武田(日立ソリューションズ))

これまで、各組織が情報セキュリティ対策として導入している各製品が内部不正の対策の観点からその有効性とそれらの効果的な利用方法を提示・解説

内部不正と情報漏えい対策(塚田(日立ソリューションズ))

情報セキュリティ対策の考え方と段階的導入についての概観、解説

情報セキュリティ事件にみる温故知新(山岸)

日本の「コンピュータ犯罪史」を振り返る

(日本情報経済社会推進協会JIPDEC)

情報漏えいの事後処理(山田(DIT))

インシデント対応とフォレンジックについて解説

第3部 組織行動と社会規範



職場環境の整備で防ぐ内部不正(島^(NEC))

職場におけるどの環境条件が内部不正に関係するかについての統計分析

「内部不正防止ガイドライン」を活用した組織横断的対策(益子^(IPA))

IPAが公表している内部不正防止ガイドラインを活用する方法について解説

内部不正から企業を守る法制度(宮内^(五番町法律事務所))

内部不正から組織を守るための法制度を解説

内部不正の原因と対策に関する考察(野津^(大日本印刷))

印刷産業を例に「不正のトライアングル」と組織文化による抑制について考察

個人情報保護と営業秘密管理の動向(小川^(みずほ情報総研))

個人情報と営業秘密の取り扱いに関する世の中の動向を解説

第4部 人の意識と組織文化



環境犯罪学からのアプローチ(高木^(東大))

街づくりや社会の防犯で使われる「環境犯罪学」を、内部不正に応用する手法を解説

内部不正抑制に応用できる犯罪理論(甘利^(セコム))

内部不正抑制に適用出来る、各種の犯罪・防犯理論について紹介

状況的犯罪予防論による内部不正・事故抑制手法(甘利^(セコム))

犯罪抑制のための各種防犯理論を、内部不正対策に活用するための提言

組織文化に基づいた内部不正・事故抑制手法(甘利^(セコム))

働く人間に対する職場のあり方という観点から組織論的な内部不正対策について提言

- 組織における内部不正対策について、従来のセキュリティ対策書籍にはない様々なアプローチの方法(視点)を解説した書籍となっています。
- 情報システム部門に限らず、総務、人事、経理、法務などの方にも参考になるように編まれています。
- 「組織のオペレーションを守る」という「セキュリティの本質」に関係する新たな知見が満載です。
- 皆さん、ぜひご一読ください。また上記部門の担当の方にお薦めして頂ければと思います。



「内部不正対策14の論点」の内容詳細については、機会を改めて、別途紹介させて頂く予定です。



JNSA PRESS

JNSA ワーキンググループ紹介

組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG

WG リーダー セコム株式会社 甘利 康文

「組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG」 情報セキュリティ分野では、人による情報漏洩が話題になり、多くのベンダーから、技術的にその対策を

活動目的 (2012/7 発足時)

組織で働く人間が引き起こす事故、すなわち意図を持った「内部不正」と、意図のない「ヒューマンエラー」を対象として、これらの「内部不正・事故」の防止／抑止方法論を具体的にまとめること

「内部不正・事故」の対象想定：

使い込み、内部窃盗、不正経理、取引先等との癒着、意図的不作為・隠蔽、カルテル、組織の私物化(公私混同)、ハラスメント、ヒューマンエラーなど、組織で働く人間が引き起こす違法(脱法)行為、ルール違反全般 (システムからの情報漏洩などのIT分野に限りません)